

平成 28 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■ 自主研究 3	公益目的事業 16
主査名	林 克彦 ・ 流通経済大学流通情報学部 教授	
研究テーマ	労働力不足に対応した宅配便ネットワークの構築に関する研究	
研究の目的： 宅配便は、全国の消費者や事業者向けに小口貨物を迅速に届ける重要な物流インフラの役割を果たしており、深刻化する労働力不足に対応した安定的なネットワークを維持する必要がある。本研究では、宅配便事業でとられている労働力不足対策を把握したうえで、今後も高度な輸送サービスを確保するためにはどのような対応策が有効であるか検討する。 研究の経過（4月～9月）： 第1回研究会（5月27日）：本研究プロジェクトのテーマおよび研究方針について議論を交わした。ゲスト講師ヤマトグローバルロジスティクス書川氏・吉野氏より「中国向け越境 EC 販売拡大支援サービス」について報告があり、討議を行った。 第2回研究会（7月29日）：以下の報告と討議を行った。林・根本「ネット通販と宅配便における物流革新」、根本・石原「中国向け越境ネット通販の物流上の課題」、高野氏「国際保冷宅配便の国際標準化（BSI の PAS 策定プロセス）」、林「日韓自動車部品サプライチェーンにおけるシームレス物流体制の整備」。 第3回研究会（8月24日）：インド自動車部品調達物流視察調査のスケジュール討議。9月11日～9月17日に、ベンガルール・チェンナイでトヨタキルロスカ、ルノー日産インドア、物流事業者等を訪問調査。 研究会と並行し、運転者を中心とした労働力の状況、ICT を活用した省力化、自動化技術の導入状況、宅配便三河幹線ターミナル（ゲートウェイ）竣工の影響等を調査中。 下期へ向けて（課題等）： 宅配便事業における労働力の実態や労働生産性について、統計の把握や分析を進めるとともに、事業者における実態を把握したい。最近では、ロボット、ビッグデータ、AI 等の活用が注目されており、ドローンや自動運転トラックの試験導入も進められていることから、このような事例についても幅広く収集したい。また、物流条件の異なる諸外国における物流事業についても、国際比較の視点から引き続き調査を進めたい。 研究メンバー（敬称略）： 林克彦（主査・流通経済大学） 根本敏則（一橋大学） 橋本雅隆（明治大学） 石原伸志（東海大学） 齊藤実（神奈川大学） 宮武宏輔（流通経済大学） 高野茂幸（ヤマトホールディングス） 佐々木啓介（ヤマトホールディングス） 坪谷永美（ヤマトホールディングス） 丸山貴之（東京工業大学）		